

令和6年度 自己評価結果の学校合関係者評価委員会への報告

1、 本園の教育目標 「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に基づき、本学の建学の精神「よいこのころは ちくしのころ」を育む。

- (1) 父母に感謝し、祖先を崇め、天地の恵みに感謝する子どもに育てる。〔愛〕
- (2) 健康で逞しくしかも集団の中にあつてのびのびとした子どもに育てる。〔勇気〕〔親和〕
- (3) 生活に必要な能力や態度などを身につけ、感性豊かな子どもに育てる。〔知性〕

2、 中期経営目標と本年度の重点目標

中期経営目標 ワンランク上の保育者の資質や能力の向上を目指す（園内研修を通して）

重点目標 ①戸外あそびの充実 ②保護者とのよりよい関係の構築 ③職員の働き方改革に向けた工夫

3、 本年度の評価項目の達成状況及び取り組み状況

評価 A:達成している B:概ね達成している C:一部改善を要する D:改善を要する

重点的に取り組む目標	評価項目	評価指標 及び 評価結果					自己評価結果		次年度へ向けての改善策	
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果	総括評価		取り組み結果・成果などに関する教職員の主な意見
戸外あそびの充実	したくなるようなあそびや運動を構成する		(年少組以上) 身近にある自然の変化や事象は、機会を逃さず、存分に関わる時間や場を設定する。	2.6		(年少組以上) 自分たちで身近な環境にある草花や生き物をあそびに取り入れて遊ぶようになった。	3.3	B	<p><年少組以上></p> <ul style="list-style-type: none"> ○戸外あそびでは、園庭に三輪車やぼっくりのコース、ボールあそびをするコーナーを作ったり、意欲的に縄跳びに挑戦できるように縄跳びカードを作るなどして環境の設定を行った。それぞれのコーナーで体のいろいろな部分（足で漕ぐ・体幹を意識する・投げる・跳ぶなど）を動かしながら、遊べるようにした。 倉庫が地下にあり、子ども達だけで取りに行けないため、自由に使用できるように環境を整えた。 ○身近な自然との関わりに関しては、園内で育てていたラディッシュの葉にいた青虫を虫かごに入れて飼育・観察を行った。図鑑を見ながら何が生まれてくるか楽しみにする姿や青虫からさなぎ・蝶へ成長していく過程も新鮮なことであった。 また、今年は積雪もあり貴重な経験ができた。 <p><満三歳児以下></p> <ul style="list-style-type: none"> ○大学の庭へ散歩に行くようになり、広々と遊べる場所で追いかけっこや、ボールあそび、リトミックなどのあそびを喜ぶようになり、保育教諭も一緒に参加することで自ら戸外に行きたいと言うようになった。 ○季節毎に大学の庭や公園に行き落ち葉を拾ったり虫を探したりして子どもと一緒に触れることができた。 ○体育あそびを通して準備体操やバランス運動にも興味を示しているため、固定遊具で遊ぶ前や散歩に行く前に保育教諭と一緒に行動することで更に興味をもち積極的に参加する姿が見られるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○遊具の倉庫が地下にあるためその遊具を子どもたちに見えるように提示したり、子どもが興味に合わせた遊具を準備する方法を検討したりして、環境を構成していきたい。 ○蝶が幼虫から成虫に成長していく過程を観察したり、夏野菜やちゅうりっぷなどの植物の水やりなどを積極的に行ったりしたが、自然を取り入れた遊びがあまりできなかった。より自然に触れ季節を感じられるように次年度は遊びに取り入れていきたい。 ○戸外あそびが運動あそびと自然と関わるあそびに偏っていたため、他にも戸外でできるあそびのヒントを職員間で一緒に考える機会を設けていきたい。
			(満三歳児以下) 保育者が率先して自然に触れたり感じたことを言葉や表情で表現したりする。			(満三歳児以下) 楽しんでいたあそびを繰り返したり新しい遊具に気付くと意欲的に遊んだりするようになった。				
			(年少組以上) いろいろな動きが生まれるように園庭の環境を活用して移動遊具を設定する。		自分たちで身近な環境にある草花や生き物をあそびに取り入れて遊ぶようになった。					
			(満三歳児以下) 園児と一緒に戸外で遊具を使って身体を動かし、運動あそびの楽しさを伝える。		あそびを見つけると喜んで遊ぶようになった。					
	園児の「もっと遊びたい」「～を使いたい」という気持ちを受け止めながら、自分たちで遊べるように戸外の環境を構成する。		戸外で運動する心地良さを感じるようになった。							

保護者とよりよい関係の構築	一人一人とのコミュニケーションを意識した関わり	4	保護者の話に関心を寄せて聞き、一緒に考えたり喜びを共感したりする。	3.3	4	園生活での気になること（園に対する様々な思いや疑問）や悩みを保育者に気軽に話すようになった。	3	B	<p>○受け入れや送り出しの時に保護者と必ずひと言は話をしたり、バス送迎で顔を合わせることでできない保護者にも電話で家庭での様子を聞いたりすることにより保護者と信頼関係を築くことができた。また、保護者の方から子どもの家庭での様子を保育者に話してくれるようになったという意見が多く、園と家庭とで子どもの成長を共有することができた。</p> <p>○発達についての姿（食事面、自我の育ち等）に悩んだり戸惑いをみせたりする保護者もいたため、登降園時や連絡帳を通して、園での姿をふまえながら保護者の気持ちに寄り添い話を聞くよう意識した。日々の子どもの様子や発達を互いに知り合うことで、生活面やあそびの成長を喜び合うことができた。</p>	○バス送迎の保護者とも積極的に電話をして会話することを行ってきたが、直接対面で顔を見て話ができないので家庭での様子が把握しにくい部分もあった。引き続き信頼関係を築きやすい関係性を作っていきたい。
		3	バスや送迎時の混雑状況からコミュニケーションをとることが難しい保護者には、必要に応じて電話で伝える。		3	園での様子を保護者からも保育者に尋ねるようになった。（電話や「送迎など」）				
		2	園児の園での様子を話したり家庭での様子を聞いたりする。		2	保育者の話に耳を傾けながら会話を楽しむようになった。				
		1	保育者がすすんで笑顔で挨拶をする。		1	保護者からも挨拶をするようになった。				
	保護者への保育体験充実に向けた取り組み	4	たよりやホームページなどで、園児から寄せられた感想や、その後の保育の展開などを、他の保護者に知らせこの活動のよさを意識づける。	2.8	4	保護者は、「自分でもできそうなことがあるかもしれない。」と先生に尋ねたり相談したりやってみたりするようになってきた。	2.3	C	<p>○昨年の反省を活かして保育体験を行いたい方には不安にならないように早めに密な打ち合わせや準備を行ったので安心して保育体験に取り組んでいただけたと思う。また、子ども達と会話をしながら実施できたので前回よりも園を身近に感じてくださる方もいた。ハードルが高いと思われる保護者もいたようなので参加者から他の保護者に楽しさを発信してもらえよう工夫ができるようになったと思う。</p> <p>○保育体験に興味をもっている保護者には引き続き声をかけたり情報を伝えたりしている。また保育体験を行う保護者には園児の様子や興味をもっているあそびを具体的に伝え、連携を図ることもできた。</p> <p>○仕事との調整や未満児での保育体験を難しく考えるようなので、行事の中で取り入れるようにし、気軽に参加できるように心がけた。</p>	○保育体験に参加する保護者が決まっているため少しハードルが高いと思われる部分もあると考える。次年度は保育体験の中に保護者が実践することに加え、保育者が中心となって保護者と一緒に行うことから始め、園での子どもの様子や成長した姿を見ていただくことで園を身近に感じるができるのではと考えている。
		3	事前の打ち合わせを密に行い保護者が我が子や園児と関わるのが楽しいと思えるような援助をしたり喜びに共感したりする。		3	保育体験をして感じたことや子どもたちの反応や様子などを他の保護者に伝えたり、喜びを共有したりするようになった。				
		2	（体験する保護者には）園児が好きなあそび・歌・絵本などの子どもの姿を分かりやすく知らせる。クラスだよりやドキュメンテーション等で、保育体験の様子を知らせる。		2	保育体験の情報等を興味をもって見るようになってきた。				
		1	保育体験の様子をホームページで知らせる。		1	保育体験についての情報は見ている。				
職員の働き方改革に向けた工夫	相互関係の励行	1	無理のない範囲で、臨機応変に調整する。	3.2	4	保育者間で積極的な報連相を行い、前年度までの記録ノートを見返したり、計画や業務内容を確認し自分の役割を把握したりするなど、前もって見通しをもって取り組むことで、時間短縮につながった。	3.1	B	<p>○リーダーの先生と連絡をこまめに取りながら、進捗状況を確認したり、前年度の記録ノートや反省会記録を見ながら見通しをもって業務に取り組むことができた。</p> <p>○わからないことを自分から聞けず、先輩の先生が助けてくれたが自分からも聞けるようになりたい。</p> <p>○作業の終わりの目安や期限を決めたことで以前より効率良く進められるようになった。会議や反省会では、資料が前もって準備されていたため、事前に目を通して臨むことができた。</p>	○限られた時間の中でできる仕事内容(製作物の内容や環境準備)などを検討したり、年間や学期ごとの仕事内容を見据えて時間の余裕をもって取り組み始めるために学期ごとに書面にするなど工夫をしていきたい。
		1	保育者間で進捗状況を確認する。		3	当事者意識をもって業務に当たるようになった。				
		1	業務完了の期限を決め、見通しをもって行うことができるよう計画を可視化する。		2	自分の担任（担当）としての業務は見通しをもって行おうとするようになった。				
		1	会議資料の事前配布と時間管理		1	目の前の業務に追われている。				

4、 学校関係者評価委員による評価及び意見

○幼稚園の多くの取り組みがとても良いと思います。

○課題については、例えば参観の時間を一週間程度設定して参観できるなどをしてみるのもよいかと思
います。また、若年教諭のOJTについてはより具体的に見通しをもたせ指導することが必要になってくる
と思います。

○来年度もできる範囲で交流していきたいと思います。よろしく願いいたします。

○わたしの娘が幼稚園を卒園して随分時間が経ちました。コロナ禍を経験し、人間関係が希薄になりそ
うな時代から、コロナ禍が明け新たな取り組みが増えてきて希薄だった関係が密になってきました。
保護者との関係を大切に構築していこうとしていると評価します。保護者と保育者で子ども達を見守り、
東筑紫幼稚園らしさ「勇気・親和・愛・知性」をもって保育に取り組んでいただきたいと思います。

○給食参観のように保育参観（開放日）を数日設けてもらえると保護者も園の様子がわかると思います。
保育体験と言えるかわかりませんが、年長組の「こいのぼり交流会」の時に保護者に付き添いをお願い
する（園にとっては負担になるかもしれませんが…。）などのお手伝いから参加することで園を身近に
感じたり、子どもとの会話も増えるようになるかと思ひます。月の子どもの姿がカラーになり、また各
クラスごとの様子がわかるようになり園が保護者に寄り添ってくれていると感じています。昔からです
が、担任の先生以外の先生達も子どもや保護者に声をかけてくださっていて、園全体で子ども達を見守
っているのがすごくわかり、感謝しています。

○園児・保護者・職員と連携されていることには感心いたしました。園児にとっても連携されているとい
うことは、とても良い環境の中で育成されていると思います。貴園の建学の精神「よいこのこころはち
くしのこころ」そのものだと思います。

○また私たち学校関係者評価委員にも意見を求められることはとても良いことだと思います。

○園児にとって良い環境の中で学びを通して子ども達がいろんなことを育んでいけたらと思います。
今後とも地域との連携もよろしくお願い致します。

5、まとめ

<戸外あそびの充実について>

○今まで課題であった戸外あそびは遊具が見えるような置き方を工夫したり、年長組が遊んでいる姿を見て自
分たちも「してみたい！」という憧れから年中組・年少組にもあそびが広がっていった。更に保育者も
体幹を意識したあそびを取り入れたり縄跳びカードを作ったりして意欲的に取り組めるように工夫したこと
で一層充実したあそびになったと考える。

○保育者が花についている蝶の幼虫からさなぎになる様子が見えるように環境を設定したところ、子ども達は
毎日興味深く観察していた。蝶になって飛び立つ様子を友だちや送迎に来た保護者と一緒に見た感動が心に
残り、自分たちでも「やってみたい！」という思いをもったことが自然に触れる活動へとつながっていった
と思う。（その後も家庭から持ってきたアゲハチョウの幼虫や園庭の大根の葉についていたモンシロチョウの
幼虫を羽化させるなど園児の興味関心が続いた。）

○特に満3歳児以下は大学の中庭や畑・園前の公園など身近にある恵まれた環境を利用して散歩や自然観察を保
育者が計画し、思い切り遊んだことが大きな成果につながったと考える。（半面、安全面の心配からか、園の
前にある公園を十分に活用できておらず、戸外あそびの園内研修を通して戸外あそびの環境に恵まれているこ
とに先生たちが気付く。）

<保護者とよりよい関係の構築>

○担任やそれ以外の教師も直接送迎の保護者とは積極的に子どものことについて園の様子を話したり、保護者支
援も行ったりしてきた。バス送迎の保護者へも担任から定期的に電話を掛けたが、保護者が自分の悩みを気軽
に話すまでには至らなかった。理由としては、対面で顔を見て話すことができなかったからではないかと考え
る。

○保護者保育体験については、保護者のみで子どもの前に立つことはハードルが高いと思われるように思う。

<職員の働き方改革に向けた工夫>

○「少なくとも一週間のスパンで仕事の見通しが持てること」「やるべきことに優先順位がつけられること」
「今日ほどこまでするか考えること」が大切である。本園には以前からリーダーの先生が学年の若い先生と
保育に関する準備など一緒にできることは一緒に行う風土ある。この取り組みを通して、それが更に意識し
て行われるようになったように思う。職員の働き方改革に向けた工夫はスタートしたばかりである。引き続
き推進していきたい。

※学校関係者評価委員の皆様からのご意見をいただいて・・・

「本園の建学の精神をご理解いただいていること」「温かい言葉から支えていただいていること」が実
感され感謝の気持ちでいっぱいである。いただいた課題は令和7年度も引き続き取り組み、今後も保護者
や地域の方のお力添えをいただきながら、園児を真ん中にして保育を行おうと思う。